

原発事故の責任は 国と東電にある

■ コスト優先で津波対策軽視

7月13日、旧東電経営者（勝俣会長・清水社長・武藤・武黒副社長ら）に対する株主代表訴訟で、東京地裁は、原発事故を未然に防げなかった経営責任を認め、総額13兆3千億円の賠償を命ずる判決を下しました。原発事故は旧経営陣がコストを優先させ津波・浸水対策を怠った結果と厳しく認定したのです。裁判では、裁判官による現地調査が行われ、炉心冷却と汚染水処理が継続している実状、高濃度の放射線量の過酷な環境下で廃炉作業に従事する労働者の現状、放射能汚染で正業を奪われ、故郷を追われた人々の窮状が明らかになりました。フクシマを巡る多くの裁判で裁判長自ら現地調査をしたのは初めてであり、朝倉裁判長は、「東電は有識者の意見のうち都合の良い部分を利用し、都合の悪い部分は無視し、電力事業者として安全意識や責任感が根本的に欠如していた」と批判しました。

■ 巨大津波は予見でき、 事故は防げた！

裁判の争点の一つは2002年の地震予測「長期評価」について。「専門家の中で意見が分かれていた。信用できない」という被告の主張に対し、判決は「自然現象に対する知見は全員が一致するとは限らない。異論があるから否定するのは不当」とし、「15.7^兆の巨大津波の試算に科学的信頼性があった」と認定しました。敷地高を超える津波来襲の可能性を経営責任者として認識していながら津波対策・防水対策を9年間にわたって先送りし、取締役としての注意義務を怠った、と述べています。原子炉建屋や重要機関室の浸水対策を行っていれば、全電源喪失・メルトダウンの重大事故を防げた可能性



全造船関東地協労働組合

一人でも誰でも入れる労働組合 **よこはまシティユニオン**

横浜市鶴見区豊岡町 20-9-505 TEL&FAX 045-575-1948

ホームページ <http://yuniyoko.sakura.ne.jp>

【2022年8月11日】

は十分あったのです。

フクシマ原発が重大事故にならずに済んだ可能性があったことを裁判所が認定したことは、非常に重要です。東電も国・政府は、「原発事故は想定外の巨大な津波が原因」と説明してきました。原発事業者・国と政府・学者・多くのマスコミなど「原子力村」が同調し、「避けられなかった自然災害」と多くの国民も思い込まされてきました。事故から11年、「事故原因」の一端が明確に指摘されました。

■ 再生可能エネルギーを主力に！

6月17日、原発事故で被害を受け、故郷を追われた住民が東電と国に損害賠償を求めた避難者裁判で、4件（福島・群馬・千葉・愛媛）の高裁判決について、最高裁第二小法廷の判決が示されました。東電と国の責任を認めた福島、千葉、愛媛各高裁と、国に責任なしとする千葉高裁と、判断が分れていました。最高裁判決は、「地震の規模も巨大津波も想定より大きく、国が東電に対策を命じていても防げなかった。だから国に責任はない。」というものでした。第二小法廷の4人の裁判官のうち、三浦裁判官は「長期評価は科学的信頼性があり、対策を指示しなかったのは国に責任がある」と、判決への異論を表明しています。

国・政府は、原発に依存するエネルギー政策を止め、再生可能エネルギーの活用拡大に転換すべきです。石油資源の流通制

限や高騰、脱炭素社会推進は、自然エネルギー活用・拡大の好機です。原発再稼働により夏場の電力供給を賄おうとすることは、その場しのぎあり、危険で、誤った政策です。今こそ再生可能エネルギーに人と資金を投資する政策を行うべきです。

【組合員 Y】

■ 故長尾さんの闘いを胸に

よこはまシティユニオン組合員だった長尾光明さん（故人）は福島第一原発で働き、被ばくが原因で退職後に多発性骨髄腫（血液のガン）を発症し労災認定されました。損害賠償を求めて東京電力を相手に裁判を起しましたが、東電は労災認定はおろか病名すら否定。裁判所も長尾さんの請求を棄却しました（最高裁2010年4月）。

■ 原発で働く労働者と共に

原発は電力会社を元請とした4～8次の下請会社で稼働しています。3.11以降、多くの労働者が福島第一原発の収束作業に関わり、被ばくを余儀なくされています。東電福島第一原発の収束・廃炉作業や九電玄海原発の定期検査に従事し、被ばくが原因で白血病になったあらかぶさん（40代男性）は2016年11月22日に東京電力と九州電力を相手に損害賠償を求めて提訴し闘っています。ぜひ多くの皆さまのご支援をお願いします。

■ 職場の問題、いつでもご相談を！

東日本大震災や原発事故を忘れないため、私たちが毎月11日に街頭宣伝活動を始めて11年目になります。これからも、何ができるのかを一緒に考えたいと思います。「福島どころじゃない」「自分の仕事と生活が大変」という方もいるでしょう。そんなあなたこそ、あきらめる前に一度ぜひ職場の問題をユニオンに寄せてください。一緒に解決しましょう！